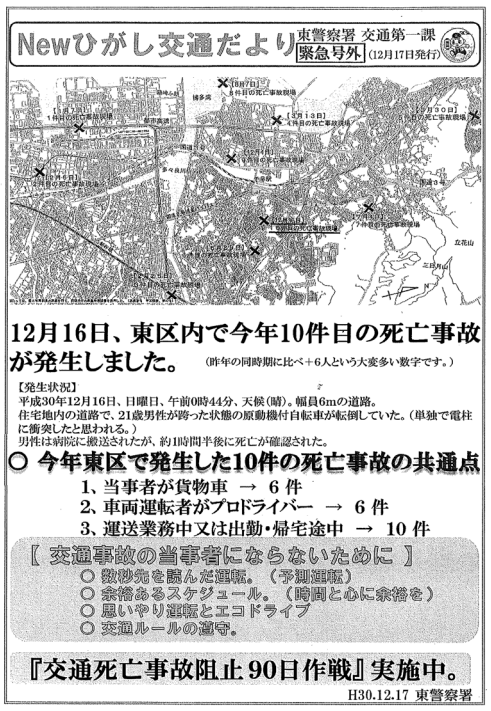
キャンパスサミットニュース（大学・地域連携情報） vol.114

【発行】2019 年 1 月 7 日 【発行元】大学・地域交流まちづくり実行委員会（福岡工業大学／大学・地域連携推進室）〒811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1
TEL092-606-7430 FAX092-606-7445

福岡県警察･東警察署報告

【交通安全・街頭犯罪に関すること】

東警察署より、12 月 16 日(日)現在で今年１０件目の死亡事故が発生した旨の報告がありました。



◆二セ電話詐欺の新たな手口について

青少年健全育成事業･少年軟式野球FITジュニア

《小学部活動状況》

11 月の練習試合は主力選手の故障があり、全く勝てない試合が続きました。

５年生以下が出場する、新人交流会では、１回戦を接戦で勝利。

強豪チームと対戦の２回戦でも試合終盤まで接戦し頑張りましたが、１点差で惜敗しました。

しかし、この大会では、５年生が成長して、課題であったチーム戦力に厚みが増したと思われます。

このチームでの大会も、あと二大会となり、いよいよ集大成の時となりました。

選手たちの奮闘が期待されます。

社会環境学部等地域貢献活動報告

【坂井教授・活動内容】

HP；http://www.fit.ac.jp/~sakai/

◆福工大里山ビオトープ活動

平成 30 年度の冬のビオトープ活動は、**12 月 8 日（土）9：30～12：00 に第 51 回自然観察会を開催**しました。テーマは「冬の里山・ビオトープの自然観察と伝統の籠編み体験」活動で一般は 26 名、学生 27 名が参加しました。すっかり冬の装いに変化した里山・ビオトープを五感で観察した後、クズ（葛）の蔦を採取しました。そして、伝統文化のクズの籠編み体験を楽しみました。参加者は個性的な籠やクリスマスリースなどを製作しながら、楽しく交流しました（下の写真）。

今年度は４回の自然観察会に 178 名の参加者があり、里山・ビオトープ活動を無事、終了しました。平成 18 年から今年度 51 回までの**延べ参加人数は、13 年間で 1,710 名になりました**。親子の参加者は、特に自然環境の中で五感を駆使して遊びながら感性を高め、環境学習で親子の絆を深めていました。今後も、地域の環境活動拠点として、継続的に環境学習・環境教育を進めます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

【上寺教授・活動内容】

平成３０年度地域共生事業・学習講座

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

第１回　孔子の『論語』と佐藤一斎の『言志四録』に学ぶ
１１月３０日（金）福工大A棟４３教室
14時～16時30分　参加者６名

第２回　**１２月２１日（金）**福工大A棟44教室
14時～16時30分　参加者１０名

第３回　**平成３１年２月１６日（土）**福工大Ａ棟44 教室　９時 30 分～12 時実施予定

第４回　実地講座（佐賀県多久市多久聖廟公園内東原庠舎）佐藤一斎の『言志四録』と『論語』の素読を行う。
平成３１年３月１０日（日）定員４０名
８時 大学（A棟玄関）集合・出発
10時～16時（東原庠舎での実地学習会）
１８時（大学帰着・解散）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

【子ども英会話教室・活動報告】
by レインボーブリッジ英語学院

Learning for Fun

大人は、子どもが皆、常にやる気に満ち溢れていると考えがちですが、「何年もかけて一生懸命英語を習得しよう」と、始めから意欲のあるケースは少ないのです。英語でのコミュニケーション力を構築するのはとても難しく、英語教育に関するほとんどのカリキュラムは、子どもたちの英語に対する気もちを重点に置いておらず、日本の多くの子どもたちは、学校で勉強すればするほど英語に対するやる気を失っていくという悲しい現実があります。しかし、福工大での英語アドベンチャーでは、時間が経つにつれ楽しみも増え、内容も深くなっていき、子どもたちのやる気が増えてきます。こどもたちは、生まれながらにして好奇心にあふれています。沢山の疑問をもち、絶えず自分たちの自由意志で世界を探検しています。当学院はこの好奇心を、英語を探検していくことに繋げることができるのではないかと考えます。

次回のキャンパスサミット開催日時

平成 31 年 2 月 26 日（火）14：00～

大学･地域連携推進室活動報告

Ⅰ．本学の留学生とFIT-ICEが和白東3丁目グランドゴルフ大会に参加しました。

去る 11 月 11 日（日）、第 25 回和白東３丁目グラウンドゴルフ大会が行われ、本学の留学生９名と国際交流サークル FIT-ICE の学生３名が参加しました。

始めに和白東３丁目の町内会長よりご挨拶があり、地域の方の選手宣誓が終わるとすぐに試合開始となりました。

例年通り学生のほとんどが初参加でしたが、中には昨年のリベンジに燃える学生も数名おり、クラブの持ち方や玉の打ち方が昨年よりもだいぶ板についているようでした。

今年は全員空振りも少なく力強く玉を打つことが出来、過去より打数も少ないように見えました。

チーム順位は 20 組中 17 位と 19 位。個人賞ではホールインワン賞を出すことは出来ませんでしたが、マレーシア留学生ヤップ･ウェーシンさん（短大情報メディア学科 1 年生）が 11 月 11 日にちなんだ、1 の付く順位の賞で見事“111 位賞”を取ることが出来、笑顔で賞品を受け取っていました。今年も素晴らしい秋晴れで、例年よりも温かい日差しに恵まれた大会となり、学生もより良いコンディションで楽しめたようです。(学生課)

Ⅱ．第 9 回医介学連携講座「How To 介護?! ～施設入所と認知症対応について」

創生会、福岡和白病院、福岡工業大学による「医介学連携」では、12 月６日（木）福岡工業大学 FIT ホールセミナー室にて、認知症対応と介護保険制度をテーマに第９回医介学連携講座を開催しました。

創生会から、生活相談員の川越智幸先生、介護福祉士の山口たかね先生を講師に迎え、介護保険施設の種類と役割、介護サービスを受ける場合の自己負担額や種類、認知症患者への適切な対応の仕方、認知症予防のための指を使った体操の紹介、認知症ケア技法のユマニチュードの実践方法などを幅広く解説いただきました。

当日は 50 名の定員を大きく上回る 81 名の皆さんが受講。高齢のご家族のためだけではなく、今後のご自身の生活を心配して受講された方も多く見受けられました。　（大学・地域連携推進室）

Ⅲ．国公私3大学連携「第 5 回フォーラム」開催

環境系の学部を擁する長崎大学、熊本県立大学、福岡工業大学で構成される国公私 3 大学連携。毎年シンポジウム形式で行われる「環境フォーラム」も 5 回目を迎え、今年は 12 月 1 日(土)、長崎大学を会場に 40 名を超える教員、学生が参加して開催されました。今回は、今一度原点に立ち返り、連携目的の一つである 3 大学による共同研究の実現に向けた研究シーズを探ることを目的に、各大学による研究シーズの紹介と、学生によるポスター発表の 2 部構成でプログラムが進行。共同研究シーズの紹介では、社会環境学部長で環境科学研究所長でもある森山聡之教授が「残したいみずものがたり 2.0」と題して、国内の様々な大学の研究者や自治体関係者と協働で取り組んでいるあまみず社会の推進について、その具体的活動と課題を紹介しました。続いて行われた各大学 10 名の学生によるポスター発表では、各自 1 分間のフラッシュトークを皮切りに、それぞれの研究発表がスタート。本学からは社会環境学研究科ならびに社会環境学部の学生 10 名が、2 時間に亘って他大学の学生や教員と活発な意見交換を行いました。

（社会環境学部、大学･地域連携推進室）

Ⅳ．コミセンわじろからのお知らせ